

## 第37回建設業経理士検定試験 1級 原価計算

〔第1問〕 解答にあたっては、各問とも指定した字数以内（句読点を含む）で記入すること。

問1

原価計算制度において、原価とは、経営における一定の給付にかかわらせて、把握された財産または用役の消費を貨幣価値的に表したものである。「原価の本質」としては、次の4つの要件を満たす必要がある。①原価は、経済価値の消費であること。②原価は、経営において作り出された一定の給付に転嫁される価値であり、その給付にかかわらせて、把握されたものであること。③原価は、経営目的に関連したものであること。④原価は、正常的なものであること。この4つの条件に合致したものには原価性があるといえ、そうでなければ非原価である。

問2

複数の車両による車両関係の費用（運搬費）を個別の工事に算入する方法として、部門別計算、活動基準原価計算、使用率計算がある。まず部門別計算は、運搬費を補助部門費として施工部門に配賦したのち、施工部門から各工事に配賦する方法である。次に活動基準原価計算は、運搬費の発生と関係の深い活動に結び付けて、直接的に各工事に配賦する方法である。そして使用率計算では、事前に車両の使用率を計算しておき、これを配賦率として各工事に配賦する方法である。この使用率の計算方法には、社内センター制度と社内損料計算制度がある。

[第2問]

記号 (AまたはB)

1	2	3	4	5
B	A	A	B	B

[第3問]

問1

#501	#502	#503
9,300,000 円	5,580,000 円	3,444,000 円

問2

	材料数量差異	賃率差異	作業時間差異
#501	(B) 300,000 円	(B) 30,250 円	(B) 20,000 円
#502	(B) 300,000 円	(B) 19,000 円	(B) 80,000 円
#503	(A) 100,000 円	(B) 8,500 円	(B) 8,000 円

予算差異	変動費能率差異
(B) 7,500 円	(B) 43,200 円
固定費能率差異	操業度差異
(B) 64,800 円	(B) 108,000 円

[第4問]

問1

M1型設備 2,700,000 円 M2型設備 4,320,000 円

問2

3,000,000 円

問3

導入時	32,000,000	円	記号 (AまたはB)	B
1年度	7,780,000	円	記号 ( 同 上 )	A
2年度	8,130,000	円	記号 ( 同 上 )	A
3年度	8,480,000	円	記号 ( 同 上 )	A
4年度	8,830,000	円	記号 ( 同 上 )	A
5年度	7,180,000	円	記号 ( 同 上 )	A

問4

281,533 円 記号 (AまたはB) A

[第5問]

問1

完成工事原価報告書	
自	20×1年4月1日
至	20×1年4月30日
X建設工業株式会社	
(単位:円)	
I. 材料費	1,904,200
II. 労務費	482,000
III. 外注費	1,344,800
IV. 経費	1,388,200
(うち人件費	938,600 )
完成工事原価	
	5,119,200

問2

1,352,270 円

問3

① 運搬車両部門費予算差異	4,900	円	記号 (AまたはB)	A
② 運搬車両部門費操業度差異	7,800	円	記号 ( 同 上 )	B